教育センター・育成センター所報

GALILEI

福浦八景の夕日

新しい教育　柏崎からの発信

インターネット版は
柏崎市教育情報支援システムを検索し，トップ画面の
右上「GALILEI」をクリック
してください。

平成 22 年 1 月号

柏崎市立教育センター

柏崎市青少年育成センター

１月号　CONTENTS

○ 今月の巻頭言　「子どもの成長に合わせて、保護者や地域の期待に応えて」
柏崎市教育委員会教育長　小林　和徳 ············ 1

○ 教育センターだより ·· 2
● **アクセス**（教育研究班）·· 2
研修講座スナップショット、教職員用PCの利用に関するワンポイント
● **プロジェクト Ｋ**（教育研究班・科学技術教育）·································· 7
研修会・事業の一コマ、行事・研修会予定
● **心の窓**（教育相談班）································· 8
個々の子どもの力を育てるために
カウンセリングルーム・ふれあいルームから

○ 青少年育成センター通信 ······························ 10
7ヶ月の育成活動結果、青少年健全育成大集会
○ 所員随想つれづれ　「あれから3年」　笠木　典子 ············· 12
「私の癒し」　池田恵里子
○ 教育センター２月の予定 ··· 14
○ 教育センター１２月の利用状況 ································· 15
○ その他（ポスター）　「柏崎の教育を語る会」

◆新しい年を迎えました。経済不況や雇用不安という大変厳しい社会情勢を示すかのように、年末から年始にかけて荒れ模様の天候が続きました。教育センター２階の天井も急に雨漏りがひどくなり、現在、応急処置でしのいでいます。

さて私は常々、教育職（公職）に就く人は「望遠鏡（マクロ、全体の奉仕者）の眼」と「顕微鏡（ミクロ、専門職）の眼」の両方を兼ね備えた人でありたいと願ってきました。大空から全体を見渡す眼と、地上で隅々をよく見つめる眼ということで「鳥の眼」と「虫の眼」に例える方もいます。これは年頭所感で会田市長さんが述べられた「視野を広く持って、そして足元をしっかりと固めてください」にも通じることだと、勝手に解釈しています。

今年、柏崎市は市制施行７０周年という節目の年にあたります。「復興そして新たな飛躍へ　～さらなる未来に向かって～」をテーマにした様々な記念行事が予定されているようです。２月６日に開催の「柏崎の教育を語る会」も、節目の年ということで“マクロな眼”で、「１０年後の子どもたち」を熱く語る会にしたいと考えています。

話は変わりますが、先日大雪の中、当教育センターで上越科学技術教育研究会主催の「教職員理科研究発表会」が行われました。正に“専門職”としての力量をつけるための磨き合いの場でもありました。

当教育センターも、様々な講座や活動をとおして今年も教職員一人一人のスキルアップのための支援・指導をさせていただきます。多くのご利用をお待ちしています。（ｎｈ）

今月の巻頭言

子どもの成長に合わせて、保護者や地域の期待に応えて

柏崎市教育委員会
教育長　小　林　和　徳

１　「子ども課」の教育委員会への所管替え

現在、福祉保健部所管の「子ども課」の事業の大半を、４月から教育委員会に移します。これは乳幼児期から義務教育までの期間を通して、子育てや家庭教育への支援を、切れ目なく進めることにより、さらにタイムリーで充実した総合的な教育力の向上を目指すことを目的としています。子どもが学校に上がる前と後との連携はもちろんこれまでも行ってまいりましたが、子どもの成長発達に切れ目がある筈もなく、乳幼児・児童期を対象とした、より滑らかで融合した取組で、一層の効果をあげたいということであります。また、子育ては、厚生労働省と文部科学省の施策が重なる中にあって、ややもすると別々に、分散的に行われる傾向もあって、保護者から見ると解りづらい部分もあり、教育委員会で一括して展開することとしたものです。

２　「小中一貫教育」の推進

２１年度の教育方針で「小中一貫教育への助走」という表現で示したとおり、「小中一貫教育柏崎方式」を立ち上げ、平成２４年度には一応のまとまりをつけたいというものです。現在、各中学校区単位で中学校長を推進役として、PTA 役員を交えて、小中校長会が、小・中学校共通の取り組むべき課題を集約整理し、一部については既に実践しています。

小学校教育と中学校教育の境目のない融合的な接続によって、子どもの心の成長・学力の向上･家庭地域の交流による相乗効果など､多面的な教育効果が期待できます。

地理的・文化的環境のまとまりや、交通の実態を考慮し、中学校区ごとのコミュニティを崩さない「小中一貫教育柏崎方式」は、地域に信頼される特色ある学校の創造に欠かせない取組であると考えています。

以上の二つ、子ども課の移管による乳幼児期と小学校の一貫性、引き続く小中一貫教育の展開により、幼・小・中のまとまりの中で、切れ目なく子どもの成長を支えるシステムに少しでも近づけるよう努めてまいります。

生まれた時から子どもが持っている五感を大切にし､本物の愛情に基づく親子関係を築くことの重要性を、少なくとも１５年間、維持し続けたいものです。

教育研究班だより

アクセス

No.98	平成 22 年 1 月 26 日発行	柏崎市立教育センター	945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2-31 TEL:0257-23-4591 FAX:0257-23-4610

研修講座スナップショット！

１２月に行われた研修講座の様子をお伝えします。

12月 3日（木） ニュースポーツ 生涯学習体育科体育係 原 剛 様、角山美和 様

郡市学校教育研究会保健体育研究部との共催により例年実施しているニュースポーツの講座である。今年は、室内で手軽にできるものの中から、ペタンクとカーリングの二種目について研修を深めた。ともに、チームで協力し合い作戦を話し合いながら進めるといったニュースポーツであり、受講された先生方も楽しみながら実習をしていた。

★受講者の感想より

小・中学校の頃の遊びの要素がたくさん入った競技で、工夫しながら繰り返すことで調整力を向上させていたように思います。現代社会においては、このような遊びがなくなっているので、体育の時間等で子どもたちに機会を与えていくという役割があると感じました。とても楽しかったです。ありがとうございました。

楽しいスポーツを教えていただきありがとうございました。ニュースポーツは、用具がなかなか入手できなくて困っていました。今日の研修を受けて、新しいスポーツを知ることもできたし、学校でも取り組んでみたいという思いも生まれました。

12月 8日（火） 性教育講座 京都大学大学院准教授 木原 雅子 様

講師に京都大学大学院准教授の木原雅子様を迎え、「性教育」から「生（きる）教育」へ、「予防教育」から「希望教育」へ、といった WYSH 教育の視点からご講演をいただいた。特に、後半は木原先生ご自身が実際に小・中・高校に出向いて実践された授業のビデオを基に、今の学校教育が目指すべき方向について具体的に示していただくことができた。子どもたちの心をとらえ、子どもたちに夢や希望を与え、自己肯定感や規範意識を確実に育んでおられる木原先生の感動あふれる授業に、受講者は皆引き込まれている様子であった。今後の実践に役立つ有意義な研修会であったと考える。

★受講者の感想より

このような研修会でこんなに感動したのは初めてです（涙があふれてきました）。モデル授業の全てが素晴らしかったです。こういうアプローチの仕方でこんなにも胸をうつ指導があるのか、できるのかと驚き、とともに私にもこんな授業ができたらいいなと思いました。先生がおっしゃるように“性”という枠でなく、学校教育全体で進める「生（きる）教育」が、今の子どもたちには必要だなと、つくづくと感じました。

12月 15日（火）　授業における生徒指導　　教育センター指導主事　矢沢　欣也

生徒指導は、学校の教育目標を実現する上で重要な機能の一つである。また、すべての教師が、すべての児童生徒を対象に、一人一人の自己指導能力をはぐくむために、あらゆる教育活動を通じて行うものである。今回の研修では、教育活動の中で最も多くの時間を費やしている授業の中における生徒指導ということをテーマに、前半の理論、後半の事例検討を通して理解を深めた。

★受講者の感想より

授業における生徒指導について、おぼろげだったものが、理論として説明いただきとてもよかったです。事例検討では、対応策について様々な事例から学べて、とても勉強になりました。

楽しい授業を基本として、やはり鍛えることの大切さを再確認でき、大変有意義でした。生徒指導というと、どうしてもまず児童・生徒にのみ原因を求めがちであるが、教師側にも改善点は多々あるものである。本日の講義にあった「話し方と聞き方は密接に関係がある」というくだりは、まさに自分を振りかえろというように聞こえました。参加させていただき幸いでした。ありがとうございました。

12月 18 日（金）　特別支援教育校内体制　　岡山大学大学院教授　佐藤　暁　様

講師に岡山大学大学院の佐藤暁教授を迎え、「すべての子どもの学びと育ちを保障する特別支援教育のあり方」について講演をしていただいた。特に、授業づくりといった学校教育の根幹の部分について、明確に示していただくことができた。特別支援教育の視点に立ち、実際の授業実践をもとにした具体的な方策や今学校が目指すべき方向についての内容は、受講者にとって明日からの教育実践の指針となる貴重なものであったと考える。

大寒波の影響で交通機関がストップ等する中、遠く岡山からお出でいただいた佐藤暁教授をはじめ、受講者の皆さんに感謝申し上げます。

★受講者の感想より

「学び合い、聴き合いから始まる」大変印象に残りました。何でも「積極的に」とか、「もっと自主性を」と考えがちだったけれども、「受動性」の大切さに気付かされました。一人一人全ての子どもが満足のいく授業改善こそ、最も根っこに据えていくことを目指したいと思います。

特別支援教育を特定の子だけの教育の視点だけで捉えず、全ての子の学びを保障する視点でのお話は、今後とても大切になることだと思いました。トランポリンモデルや依存的な自立、話を聞くことでの承認の欲求など、子どもの学びや育ちを考えて校内の授業づくりを進めていきたいと思います。大変参考になったお話でした。ありがとうございました。

第8回柏崎の教育を語る会のお知らせ

多様な立場や角度から、未来の柏崎や柏崎を支える子どもの教育の在り方を考える場としてスタートした標記の会も今年度で８回目を迎えました。関係者へは、案内済みですが、お問い合わせは、教育研究班までお願いします。

■と　き　平成２２年２月６日（土）１４：００～１７：００

■場　所　柏崎市立教育センター

■テーマ　夢・展望　～１０年後の柏崎の子どもたち～

教職員用 PC の利用に関するワンポイント

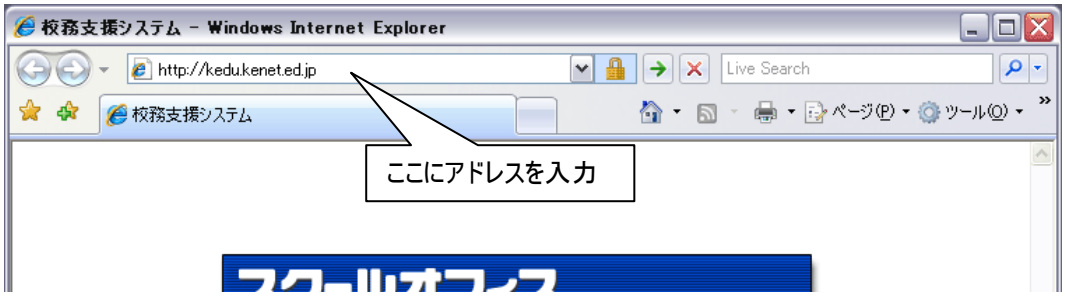
「インターネット利用の際、スクールオフィスのログインページから始まって使いにくい！」という方へ

教職員用として整備された PC では、ブラウザのホームがスクールオフィスのログインページに設定されています。もちろん、アドレスを入力することでどんな Web ページへもアクセス可能ですが、良く利用するページは、ホームに追加するか、ショートカットを用意しておくと便利です。以下にその手順を紹介します。

【注意】ブラウザのホームからスクールオフィスのログインページを消さないようにご利用願います。

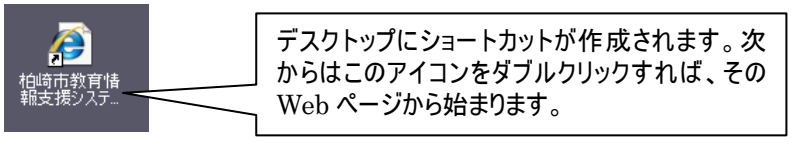
◆方法1：デスクトップにショートカットを作成する

①ブラウザを開き、アドレス欄に良く利用する Web ページのアドレスを入力して表示します。



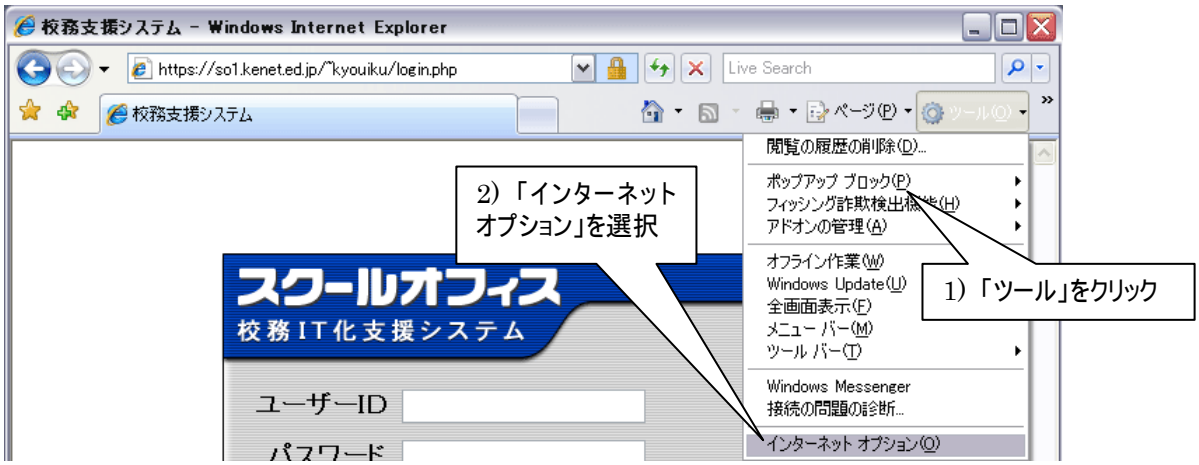
②表示された Web ページのアドレス欄左端のアイコンをデスクトップにドラッグします。

③デスクトップにショートカットが作成されます。これで、普通にブラウザを起動するとスクールオフィスのログインページが、このショートカットをダブルクリックするとその Web ページが表示されるようになります。

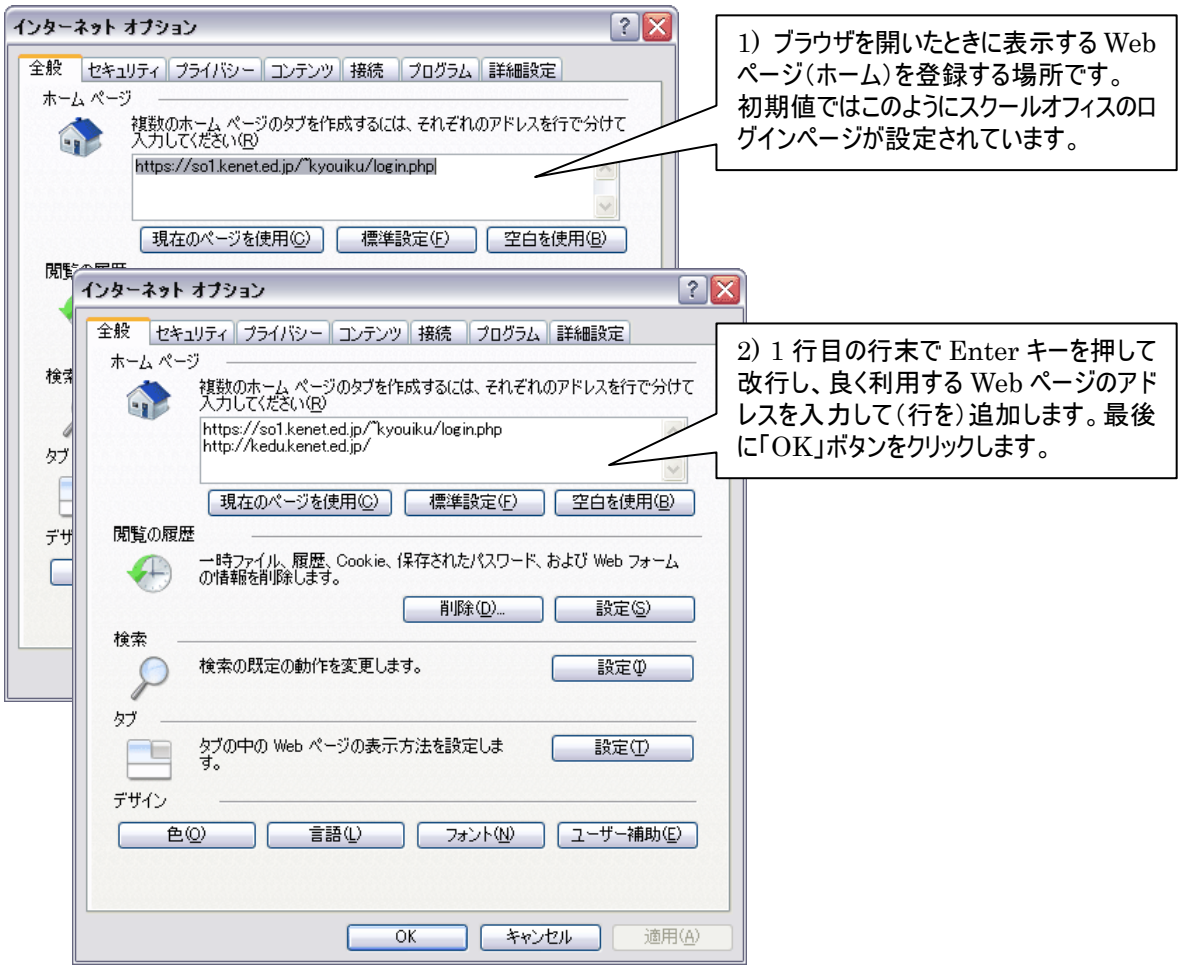


◆方法2：ブラウザのホームにタブを追加する

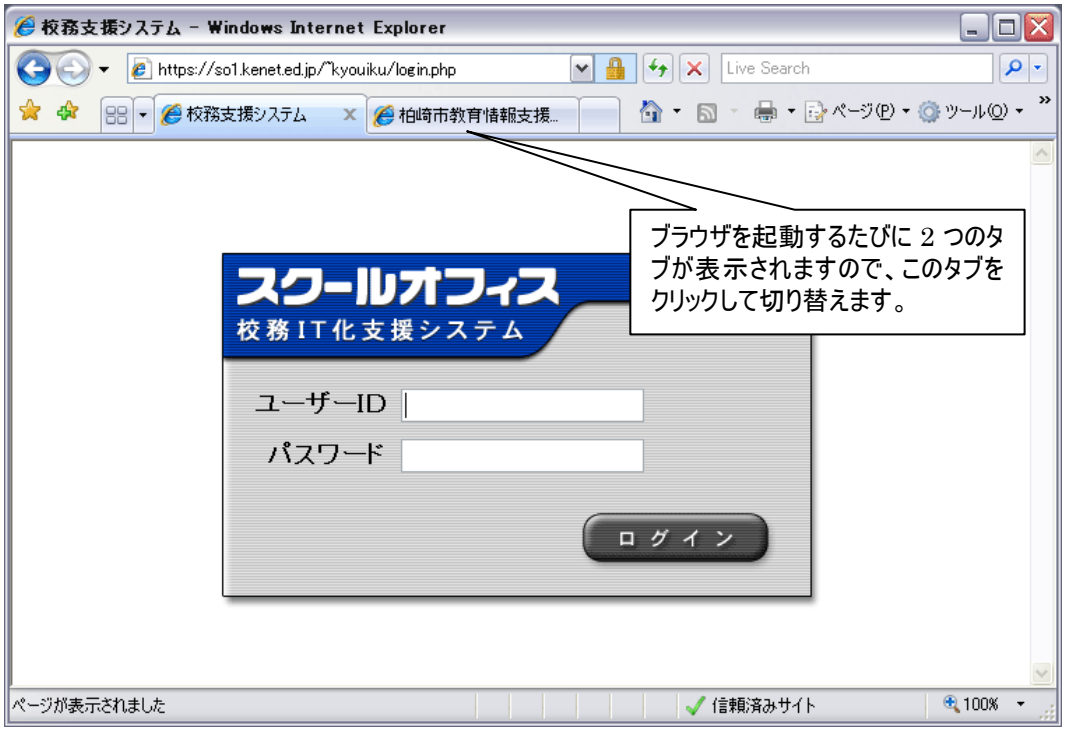
①ブラウザを起動し、「ツール」から「インターネットオプション」を選択します。



②以下のような画面が表示されますので、「ホームページ」の欄によく利用するWebページのアドレスを追加します。



③ブラウザを起動すると2つのタブ(ログインページと自分で登録したページ)が表示されるようになります。タブをクリックして切り替えて利用します。



情報関連研修講座情報

2 月に実施される情報関連講座のご案内

◆H22.2.17(水) デジタルアルバム作成入門

デジタルカメラで撮影した画像を使って，CD や DVD にデジタルアルバムとしてまとめる手順について学習します。 この講座では，以下の2つの手順を学習します。

①Windows XP 以降の環境において無償で利用できる「フォトストーリー3」を使って，写真に動きや切り替え効果を与え，BGM などを付加してムービーとして仕上げ，それを CD や DVD に書き込むところまで。

②ホームページビルダーを使って，写真をホームページ形式にまとめ，それを CD や DVD に書き込むところまで。

教育情報支援システム情報

講習会のテキスト・資料を登録しました

実施日	講座名	教材名（リンク）	サムネイル／備考
H21.12.24	デジタルビデオ編集入門	デジタルビデオ編集入門.pdf	テキスト第6版(H21.12.24)
		デジタルビデオ編集作業手順.pdf	デジタルビデオ編集の作業手順概要
		演習タイムライン説明.pdf	演習で作成するビデオのタイムライン

デジタルビデオ編集の演習素材についてはデータサイズが大きいため、Web 上には公開していません。ご自分で試してみたいという方は、必要な素材のコピーを提供しますので、直接教育センターまでお出で下さい。

セキュリティ情報

セキュリティホール情報

マイクロソフトより、1 月 13 日付で 1 月の定期更新として、Windows などの重要な更新が下記のように公開されました。まだ Update が済んでいないようでしたら、至急 Windows Update などを実施していただくようお願いします。なお、ご利用の環境によっては以下の更新以外にも、別の更新がリストアップされる場合があります。また、一旦更新プログラムが提供された後で再度問題が見つかり、予告なく新たな更新が提供される場合もありますので、「自動更新機能を ON にする」、「定期的に更新をチェックする」などして、随時提供される更新が速やかに適用されるようにしてください。

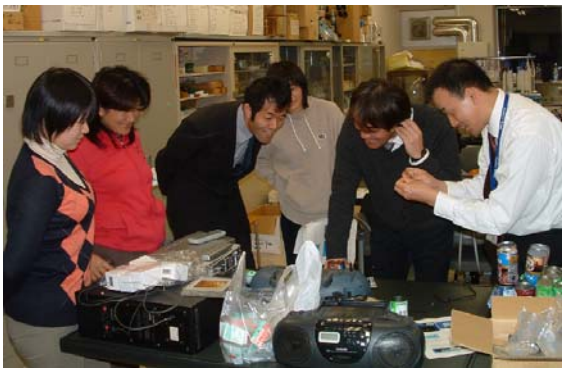
No.	更新の名称	脆弱性等の情報	対象	深刻度
1	MS10-001 Windows の重要な更新	Embedded OpenType フォント エンジンの脆弱性により、リモートでコードが実行される（972270）	Windows 2000,XP,7 Vista,2003 Server, 2008 Server,	緊急

注意 警告 重要 緊急 は右側ほど深刻度が高く，緊急の対応を要します。

研修会・事業の一コマ　・・・　研修会の様子＆参加者の声など　・・・

○小学校学年別研修会　第５学年「電流のはたらき」　（１月５日実施）

◇内　　容　電流と磁力の関係についての追究活動を通して，電流の働きについての見方や考え方を養うための教材や単元構成の研修を行いました。電磁石釣り竿やクリップモーター，空き缶やガムテープを使ったスピーカー作りも行いました。残留磁気の影響をなくし，実験の再現性を飛躍的に高める工夫についても実習しました。



○第４８回教職員理科研究発表会　（１月１５日実施）

（上越科学技術教育研究会主催・柏崎市教育委員会共催・刈羽村教育委員会後援）

◇講　　師　上越教育大学 教授 小林 辰至 様

◇内　　容　理科教育の日々の地道な研究実践２３テーマを２部門２会場に分け，学会形式で発表し意見交換を行いました。また，上越教育大学教授　小林辰至様より，発表についての御指導をいただき，「新学習指導要領に応える理科授業のポイント」について御講話をいただきました。荒天の中ではありましたが，ほぼ全ての参加予定者が参集し，充実した発表会となりました。

１月後半～２月上旬のおもな行事等

○中学校分野別研修会　第２分野「面白・お役立ち生物実験」

◇日　　時　１月２８日（木）

◇会　　場　教育センター　科学実習室

◇内　　容　衛生上の不安を解消する簡単解剖実習やユスリカのだ液腺染色体観察，確実な分裂細胞観察方法，お手軽ＤＮＡ抽出法などの実習を予定しています。

○小学校学年別研修会　第４学年「もののあたたまりかた」

◇日　　時　２月２日（火）

◇会　　場　教育センター　科学実習室

◇内　　容　固体の熱伝導と液体や気体の熱伝導の仕組みの違いを実験を通して比較し，もののあたたまり方についての見方や考え方を養い，実感を伴った理解を促す指導についての研修です。対流現象の提示に適した教材の紹介や，必ず成功する熱気球づくりも行います。

○他…要請による各種研修会

平成２２年　１月２８日

心　の　窓（教育相談班だより）　№１２５

柏崎市立教育センター　〒945‐０８３３　柏崎市若葉町２番３１号　℡（代表）２３－４５９１
（Fax）２３－４６１０

＜教育相談＞ 「個々の子どもの力を育てるために」

柏崎市立田尻小学校

当校の今年度の目指す子ども像は、「自分で考え（決め・選び）、伝え合い、進んで行動する子ども」です。この子ども像に迫るため、特に育てたい資質・能力として、次の５つのことを具体的に定めています。

・　自分の考えをしっかりもつ。
・　自分の思いを伝えたり、相手のことを考えて聞いたりしながら、他者とかかわろうとする。
・　自分のできることに、粘り強く、誠実に取り組む。
・　自分の体を大切にする。
・　自分らしさ（よさ）を知り、自分に自信をもつ。

これらの力が育つように、日々の教育活動や教育相談等を行っています。

（１）　年２回の学校生活アンケートや「ハートフルトーク」の実施

前期と後期に学校生活アンケートを実施し、それらをもとに、個々の子どもと「ハートフルトーク」（教育相談）を行っています。一人一人が感じていることや困っていることを知り、その子に寄り添って指導や支援をしたり、学級全体の傾向を把握し、学級経営に役立てたりしています。「いじめ防止学習プログラム」の一環として、アンケートやハートフルトークの様子から具体的にどのような取組を行うのか、その後どのような経過や成果が見られたかなどを記録しておくようにしています。

（２）「子どもを語る会」の実施

年数回の「子どもを語る会」のほかに、毎週の職員朝会で、その時点で気になる子どもについて、リアルタイムで共通理解を図っています。全校の人数が多く、担任以外はなかなか個々の子どもの理解が難しい面もありますが、このような場をもつことで、意識してその子を見ることができ、様々な場面での対応に役立っています。また、「子どもを語る会」のほかにも、日常的に職員同士で情報交換を心がけ、問題の早期解決に当たれるようにしています。　（文責　長部由紀恵）

＜教育相談班　　２月の予定＞

＊　カウンセリングルーム

いろいろ体験グループ
（小学生Ａ）１２日（金）１６：００～１７：００
（小学生Ｃ）１２日（金）１６：３０～１７：３０
（小学生Ｂ）１９日（金）１６：３０～１７：３０
（中学生①）２６日（金）１８：３０～２０：００

＊　ふれあいルーム

２日（火）スキー教室
９日（火）スケート教室
１９日（金）バス課外
２６日（金）中３通級終了日
３年生を送る会

＜カウンセリングルームから＞

子ども理解の視点

先日、日本臨床心理士会の会長をされている村瀬嘉代子先生のお話を聴かせていただく機会がありました。その中で、来談された方をきちんと理解（アセスメント）して支援していくための、とても大切な視点に気付くことができたような気がします。

私の場合、例えば来談してきた子どもを理解する際には、不登校などの症状の様子や現在にいたるまでの経過、本人の特性、周囲の人の様子や本人とのかかわりあたりに重きを置き、本人のニーズも一応確認するものの、わりと表面的、断片的な部分に目が向けられていた気がします。村瀬先生から、様々な症状とは「本人が物事を不安に思い、つき動かされるように」表れてくるもので、「本人が世の中をどう感じているか」を考えることが大切である、とお話がありました。支援や連携がうまく機能するためには、症状の記述のみにとらわれずに、「朝どのように目覚めて、何を感じて過ごしているか」など、生活をどのように送っているかを聴きとりながら、関係者が「当事者の体験を想像する」視点が必要であるということでした。そして、本人が「自分のことをどう思っていて、どう変わりたいか」という思いに寄り添いながら支援をすすめていくことが大切であるとお話がありました。

様々な問題や症状を抱えて来談される方にとって「わかってくれる人」の存在はとても大切なものだと思います。まったく別の人生を歩む人と、同じように体験を共有することは難しいことだと思いますが、周りの関係者が多様な角度から本人を理解し「わかってくれる人」に近づけるよう努力する姿勢が大切かと思いました。

（文責　長谷川　大）

＜ふれあいルームから＞　　２０１０年のスタートにあたり

ふれあいルームでは、書き初めで今年の抱負を書きました。

自分の思いを込めて書きたい言葉を墨で書く。太さ・大きさも自由、はね・止め・払いなどの形式にもとらわれることなく、今の素直な気持ちをそのまま表現する。そんな時間を過ごしました。

大切なのは、うまく書けたか・・、ではなく自分らしく書くことができたか・・。自分が満足できたらそれで良いのです。みんなと一緒に新聞紙を敷いて、筆を持ち、少しの緊張を感じ、墨の匂いや習字紙の感触を感じながら自分の手で文字を書く。

通級生には、こんな何気ない動作にも意味がある。そんなふうに感じ取れるようになってほしいと思います。凝り固まった心に少しずつ、心地よい刺激を与え感度良好となるよう、今年もふれあいルームは様々な体験活動を行いたいと思います。ご支援・ご理解をいただけたら幸いです。

本年もよろしくお願いします。

（文責　池田恵里子）

育成センター通信	0825	柏崎市青少年育成センター 〒945-0833 柏崎市若葉町２番31号 TEL0257-20-7601 FAX0257-23-4610 ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

２月の予定

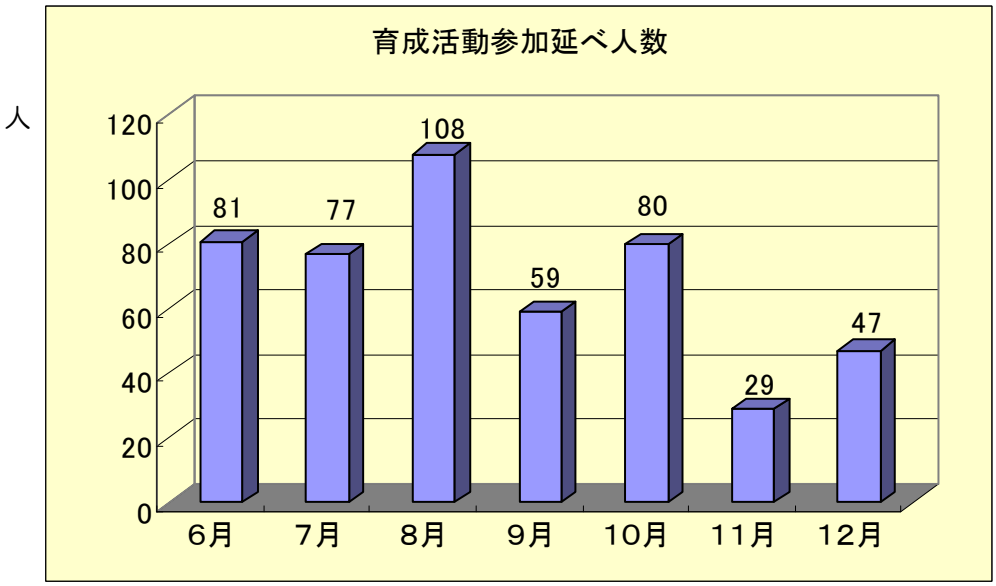
日	曜	こ と が ら	日	曜	こ と が ら
９	火	昼間育成活動（５・６班）			
24	水	昼間育成活動（７・８班）			

7か月間の育成活動結果！

6月～12月の育成活動参加延べ人数

市青少年育成委員会では，６月に新青少年育成委員を迎えて新しい陣容でスタートしました。早いもので７か月が過ぎました。７か月間で延べ４８１人の青少年育成委員が育成活動に参加していただきました。この他、小中高校の PTA の皆さんからも延べ５１２人の方々が参加していただきました。

このような熱心な取り組みのため大きな成果が挙がっています。例えば、平成２１年度に入ってから市内の不審者情報がわずか３件しかありません。不審者情報のあった周辺地域に対して重点的に街頭育成活動を行っている成果が現れてきたものと思われます。また、今年度に入ってピンクビラ４枚除去しました。市内では、ピンクビラをほとんど見かけられなくなりました。育成委員による社会環境浄化活動の成果が現れてきたものと思われます。



青少年健全育成大集会！

～講演会「ネットいじめ・その現状と大人の役割」～

去る１月２３日（土）市民プラザで平成２１年度青少年健全育成大集会が開催されました。開会式に引き続いて，「ネットいじめ～その現状と大人の役割」という演題で講演会がありました。講師として渡辺真由子さん（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所講師）を招いて行われました。渡辺さんは，「携帯電話がいじめの質を大きく変えた。陰湿で継続的ないじめが急増し，その手口が巧妙になってきている。具体的な事例を挙げながら，ネットいじめから子どもを守るための対策（応急処置・根本解決）を早急に取る必要がある。それには，大人が変わらなければならない。」と訴えていました。

当日は，雪模様でなかなか出にくい日にもかかわらず，小中高校のＰＴＡはじめ市民の方々がおよそ４００人余りの出席がありました。

大集会の最後に下記のように青少年健全育成大集会宣言文が採択されました。

青少年健全育成大集会宣言

明日の郷土を担う青少年が、地域における自らの役割と責任を自覚し、豊かな心と視野を持った大人へと成長することは、私たちみんなの願いです。そのため、私たちは関係する団体とともに青少年の健全育成を目指して幾多の活動と地道な運動を展開してきました。しかし、最近の青少年を取り巻く社会環境は大きく変化しています。とりわけ、近年のメディア環境は急速に進展をし、子どもたちの心やからだの発達へ与える影響が懸念されます。また、携帯電話やインターネットに関わる犯罪の増加など、きわめて憂慮すべき状況にあります。私たちは、この大集会を機に家庭や学校・地域が連携をして青少年の健全育成に更なる取り組みをします。

- 携帯電話やインターネットの利用は家庭で十分に話し合い、ルールを設けて、大人が子どもを守る体制をつくります。
- テレビやゲームなど“メディア漬け”から子どもを守り、「家庭のコミュニケーション」を深め、「生活リズム改善」のために、ノーテレビ・ノーゲーム運動を継続推進します。
- 「地域コミュニティ」活動を活性化して、有害環境から子どもを守り、生き生きした生活を広げていくために数多くの「場」をつくります。
- 子どもたちを取り巻く団体・機関等とネットワークを広げ、『大人が子どもも変わる』をキャッチフレーズに青少年健全育成に努めます。

以上、全市民一丸となって推進することを宣言します。

平成２２年１月２３日

青少年健全育成大集会

あれから３年

学校訪問相談員
笠　木　典　子

「３年経つと落ち着きますよ。」

中越沖地震のとき、ボランティアとして支援いただいた方が私に掛けた言葉である。その方は小千谷の方で中越地震のとき、ご自分の家が全壊し、多くの方々から助けられたそうだ。その恩返しにと中越沖地震ではボランティア活動に参加したそうだ。もう６０代も半ばの男性である。

その中越沖地震から今年で３年になろうとしている。当時、我が家も全壊し、自宅の引越し、石塀の撤去作業等たくさんのボランティアの方々から助けていただいた。そればかりでなく、当時勤務していた校舎も壊れ、余儀なく退去しなければならなくなった。１０ケ月半のうちに住居を３回、校舎を４回合計７回の引越し経験をした。

しかし、自分に悲壮感も疲労感もなかった。

支えてくれるたくさんの人々がいることを実感できたからだ。それも、温かく心強く支えてくれた。石塀撤去に来た名古屋の若者たちは茶髪にピアス姿で一見大丈夫かなと思う体裁であったが、爽やかな笑顔と頼もしい仕事ぶりで勇気をくれた。家屋整理を支援した関西の中年の方々の明るく場を和ませる仕事ぶりで心が軽くなった。忘れかけていた知人たちが、県外や県内のあちこちから駆けつけてくれ元気をもらった。職場でも地域・保護者の方々が進んで引越し作業を手伝ったり、不自由な教育環境の中だからこそとたくさんの学校ボランティアさんが教育活動を支援したりして、予定以上の教育活動を実践できた。子どもたちの初めてのバス通学にも地域で協力し合って自主的に安全な見守りもしてくれた。また、同僚の明るい笑い声とひたむきな仕事ぶりにも支えられた。

中越沖地震で受けた被害は大きかったが、それ以上に、人々が力を合わせて生きること、そして、支えあって生きることの尊さと力強さを学んだ。また、人の心の温かさにふれ、人の命の愛おしさをこれまで以上に強く感じることができ、得たものは大きかった。

２０１０年７月で、中越沖地震発生から３年を迎える。

両親からいただいた命、そして、たくさんの方々の温かい心・かかわり合うことの尊さを教わった命を大切にしたい。そして、これまで支えられてきた分、支えるようになりたいと、新しい年を迎えしみじみと思うこのごろである。

私の癒し

ふれあいルーム指導員
池田　恵里子

我が家には、この３月で５歳になる猫がいる。名前はモモ。アメリカン・ショートヘアの雌である。我が家で、２匹目の猫である。

１匹目の猫（名前はムサシ。雄猫）は、通りの激しい国道を渡り、大好きな雌猫のところに行き来しているうちに帰ってこなくなったのである。（簡単に言うと、家出したのである）猫は飼い主との信頼関係が深いほど、飼い主の顔の傍で寝るらしい・・ムサシは、いつも私の枕の傍で寝ていた。そのことが自慢だった。だから、ムサシを連れもどしに行ったとき、顔を見て逃げられた時はかなり、ショックだった。と同時に、もう連れ戻しは無理だと悟った。幸い、飼い主さんが猫好きな方で、その家の猫と一緒に置いてくださるというので、お言葉に甘えることにした。
その家は、様々な猫が自由に暮らしていた。

ムサシは、男っ気のある猫。そこで、ボスとして生きていく道を選んだのかもしれない。など勝手に想像し、事実を受け入れるしかなかった。

ムサシが家出をして３ヵ月が過ぎたころ、ペットショップに足を運び、猫を見ている私がいた。（ムサシが死んだわけではないのに、自分勝手ではないか・・と思いつつ）

それと同時に、私は、どうしてこんなに猫好きになってしまったのだろう・・。と考えていた。猫は、犬とは違い人間には、あまり懐かず、食事以外の要求は、ほとんどしない。マイペースなのである。煩わしさがないのが、楽だった。毎日のお世話は、食事とトイレの掃除くらいである。散歩の必要もない。面倒くさがりの私には、適している。

しかし、それ以上に猫のしぐさは、心が安らぐし見ていて飽きない。「癒し効果」なのである。

猫は、一日の大半を寝て過ごしている。時に、コタツで丸くなり、いびきをかいて寝ている姿は、癒される。（その姿を見て考える。「そうだよね。焦ったっていいことないよね。」「おまえはいいなぁ～。平和だなぁ～。」）特に、ただ黙って傍にいてくれる存在がほしい時には、ありがたい存在である。猫は、全てを悟っているかのようなタイミングで現れ、傍にいてくれていることがある。それだけ、猫は人間の身近にいる動物なのだ。

現代は、ペット社会とも言われペットを飼う人が増えている。特に子供が独立したあと、その寂しさからペットを飼う人も多いと聞く。動物セラピーも効果があるという。

人間は、自分と良好なコミュニケーションがとれる相手の存在がほしいため、ペットを飼うのであろう。言葉が話せない分、相手を知ろう・・と努力する。自分なりに猫の行動を分析するのも結構楽しいものである。

この原稿を書いている傍で、今日もモモがいびきを掻いて寝ている。

モモの存在は、私の心の栄養のひとつなのである。

平成21年度　月間予定表　2月　柏崎市立教育センター

日	曜	研修・行事・会議	内部事務・日程等	出張・関係事業等
1	月		所内会議　13:00	校内事例検討会（南中他：小林・栗脇・長谷川大）
2	火	ふ・スキー教室 科・小４「もののあたたまりかた」	広報3/5号〆切	うつ・自殺予防研修会（心のｹｱｾﾝﾀｰ：小林） 柏崎養護学校評議委員会（小林）10:00
3	水			介助員視察（小林・長谷川裕）AM
4	木			出・附属新潟小研究会（新潟：植木）
5	金			介助員視察（小林・長谷川裕）AM 出・附属新潟小研究会（新潟：植木）
6	土	**研：柏崎の教育を語る会　14：00**		
7	日			
8	月	相・相談班会議　13:00		＊学校教育課会議（多目・一研）終日
9	火	ふ・スケート教室（アクアパーク）		＊学校教育課会議（多目・一研）終日
10	水			就学指導通級部会（元気館：小林）13:00
11	木			出・筑波大学附属久里浜特別支援学校研究協議会（長谷川裕）～12日
12	金	相・いろいろ体験グループ（小A/C） 16:00/16:30		教育委員会表彰（市民プラザ：所長）15:00
13	土			
14	日			
15	月			
16	火	研・学校事務職員研修講座　14:00		臨時教育委員会(市役所)　13：30 ＊事務研役員会（第一研修室）15:00
17	水	教育センター運営委員会　10：00	広報3/20号〆切	出・筑波大附属小研究会（東京：植木）
18	木	一人一台ＰＣ推進委員会　15:00		出・中越地区心理士会（長岡：小林）13:00 出・筑波大附属小研究会（東京：植木）
19	金	研・若手サポート研修閉校式　15:00 ふ・バス課外活動 相・いろいろ体験グループ（小B）16:30		
20	土			
21	日			
22	月			
23	火	研・スクールオフィス年度更新講習会（多目的研修室）13:30		就学指導委・反省会（分館：小林・長谷川裕）15:30
24	水			定例教育委員会　13：30　出前実験講座（二田小：植木・今井）
25	木			
26	金	ふ・３年生を送る会 相・いろいろ体験グループ（中①）18:30	資源物回収	
27	土			
28	日			上米山小閉校記念式典・思い出を語る会（所長）10:00

研・教育研究班　科・科学技術教育班　相・教育相談班　ふ・ふれあいルーム　情・情報教育研修
育・育成センター　出・出張　＊・施設貸出　【　】は未確定の行事・時間

H21年度　教育センター事業の参加・利用状況

	研修講座・事業名		7月の利用数	8月の利用数	9月の利用数	10月の利用数	11月の利用数	12月の利用数	H21年度利用合計数
教育研究班	専門研修講座　＊		8回	12回	8回	4回	9回	5回	56回
			226人	320人	223人	56人	388人	289人	1,753人
	共催研修、研修講座		0回	0回	0回	0回	0回	0回	2回
			0人	0人	0人	0人	0人	0人	94人
	学校の要請研修会		0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
			0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	調査研究員会,教科研修員会		0回	0回	1回	2回	6回	3回	16回
			0人	0人	1人	2人	6人	3人	40人
	教育情報化研修講座　＊		8回	11回	4回	2回	3回	3回	38回
			49人	137人	40人	4人	8人	25人	333人
	情報教育主事の要請支援等		20回	7回	10回	13回	10回	10回	131回
			211人	19人	393人	95人	162人	50人	1,360人
	その他の相談・利用・参加数		0回	1回	0回	1回	1回	1回	5回
			0人	2人	0人	15人	20人	16人	54人
	教科書センター利用閲覧数		36人	5人	6人	6人	4人	2人	235人
教育研究班・科学技術教育	理科研修講座　＊		2回	12回	4回	3回	2回	1回	31回
			27人	101人	45人	16人	26人	7人	371人
	学校等の要請研修		4回	1回	1回	3回	1回	0回	14回
			543人	19人	102人	137人	42人	0人	935人
	地域の自然研修・観察会		1回	1回	0回	0回	1回	0回	9回
			69人	101人	0人	0人	45人	0人	380人
	科学教育振興事業(科学の祭典・科学教室等)		0人	1,210人	2,499人	113人	900人	100人	9,564人
	理科教育の相談・支援		65件	65件	60件	37件	47件	51件	473件
	理科教材・物品の貸出		68件	33件	80件	151件	3件	235件	1,061件
	(教職員研修の合計)		80人	178人	122人	54人	82人	107人	989人
教育相談班	カウンセリングルーム来室相談	新規相談件数	31件	20件	17件	17件	16件	25件	217件
		のべ相談件数	63件	47件	73件	73件	54件	68件	560件
	学校訪問相談		19回	9回	12回	10回	10回	10回	100回
	家庭訪問相談	訪問対象者数	2人	1人	1人	1人	1人	1人	13人
		訪問のべ回数	6回	2回	4回	5回	3回	4回	46回
	電話相談		3件	1件	1件	2件	1件	1件	16件
	ソーシャルスキルトレーニング		6回	4回	1回	5回	4回	6回	35回
			33人	22人	6人	26人	23人	29人	189人
	ふれあいルーム在籍人数	小学生	5人	6人	6人	7人	7人	7人	51人
		中学生	8人	8人	10人	11人	11人	11人	83人
	ふれあいルーム通級日数		15日	3日	19日	16日	14日	17日	141日
	ふれあいルーム通級のべ人数	小学生	36人	6人	28人	31人	34人	42人	235人
		中学生	71人	14人	105人	95人	74人	100人	664人
	ふれあいルーム学校復帰人数(部分復帰を含む)		0人	0人	0人	2人	0人	3人	12人
教育団体，ＰＴＡ，市民等の利用			341人	299人	243人	261人	257人	152人	2,383人
教育センター事業の参加・利用総数			**1,897**	**2,432**	**3,938**	**1,152**	**2,123**	**1,209**	**21,063**

第８回

柏崎の教育を語る会

多様な立場や角度から「柏崎の教育」をテーマに語り合うことを通して、未来の柏崎や柏崎を支える子どもの教育の在り方を考える会です。併せて、参加者相互の交流を実現し、学校や社会、家庭が連携して行う教育の実現に寄与していきます。

2010年2月6日(sat) 14:00～17:00

柏崎市立教育センター にて

テーマ 夢・展望 10年後の柏崎の子どもたち

内 容

柏崎市の教育の変遷／柏崎市小中学生の学習・生活の状況／
起業体験学習／フリートーク／ etc…

主催：柏崎市立教育センター／柏崎青年会議所

連絡先

柏崎市立教育センター教育研究班／矢沢欣也

TEL：0257-23-4591　FAX：0257-23-1168　E-mail：k10830-yazawa@city.kashiwazaki.niigata.jp

ガリレオ・ガリレイはイタリアの天文学者で近代科学の父と言われ、経験的・実証的方法を用いる近代科学の端緒を開いた人です。

新しい教育の創造を志向する私たちにもガリレオ・ガリレイのごときたゆまざる創造と検証の精神が必要であるという趣旨から情報紙の名称を「GALILEI」としています。

教育センターと青少年育成センターの情報とともに、柏崎の教育を広く発信していきます。

所報「GALILEI」　平成２２年１月末日発行
表紙写真撮影　中山　博迪

柏崎市立教育センター
ＴＥＬ　0257-23-4591
ＦＡＸ　0257-23-4610
E-mail　k-center@city.kashiwazaki.niigata.jp

柏崎市青少年育成センター
ＴＥＬ　0257-20-7601
ＦＡＸ　0257-23-4610
E-mail　ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp

〒945-0833　新潟県柏崎市若葉町２―31